

平成30年度第3回長野市社会福祉審議会児童福祉専門分科会
議事要旨

- 開催日時 平成30年11月22日(木) 午後1時30分から午後2時50分まで
- 開催場所 市役所第一庁舎4階 会議室141
- 出席委員 15人
(会長) 水口 崇 信州大学教育学部准教授
(副会長) 青木 一浩 長野市民生児童委員協議会児童母子(父子)福祉部会長
布目 裕喜雄 長野市議会議員
塚田 まゆり 長野市教育委員
松井 誠彦 長野上水内校長会
黒柳 博仁 長野市幼稚園・認定こども園連盟会長
鈴木 秀夫 長野市放課後子ども総合プラン館長・施設長会会長
西澤 武十 一般財団法人長野県児童福祉施設連盟理事
峰川 暁見 長野市私立保育協会会長
君塚 愛美 長野市幼稚園・認定こども園連盟
塩瀬 和泉 長野市私立保育協会
常田 こずえ 公立保育園園長会
池田 敦美 公募委員
柄澤 禮子 公募委員
柳澤 恒子 公募委員
- 欠席委員 1人
矢上 克己 清泉女学院短期大学教授
- 事務局出席者 19人
北原こども未来部長、浅川こども政策課長、丸山マリッジサポート課長、
島田子育て支援課長、中澤保育・幼稚園課長、矢島障害福祉課長ほか
- その他出席者 2人
ニーズ調査業務委託事業者
- 傍聴者 1人
- 報道機関 2社

発言者	内容
事務局	1 開会
会長	2 挨拶
事務局	<p>3 議事（長野市版子ども・子育て会議）</p> <p>(1) 報告事項</p> <p>第2期長野市子ども・子育て支援事業計画の策定に係るニーズ調査の集計結果について</p> <p>資料1～3及び参考資料1～3に基づき説明</p> <p>《質疑応答》</p> <p>アンケートの最後の設問の、子ども・子育て環境や子育て支援に関する意見・提案の自由記入には、特徴的なものはあったか。</p> <p>自由記入はまだ入力作業中である。今回は単純集計結果のみお示しした。十分な分析を行っていない。今後、内容を検証して早めにお示ししたい。</p> <p>自由記入は生の意見がダイレクトに届くいい機会なので、是非教えていただきたい。</p> <p>子育てを「とても楽しい」、「まあ楽しい」と答えている方が多いことは安心できる。全国的に虐待の相談件数が右肩上がり増加している状況の中では、良かったと思う。一方で、「子どもを叱りすぎている気がする」といった回答も一定数あり、丁寧に対応を行っていくことが望ましいと思う。</p> <p>緊急時の子どもの預かりについては、大抵は親族がみるが、それができない場合として、児童養護施設でトワイライト・ステイやショート・ステイを実施している。認知度を上げていくことが必要と考えている。</p> <p>施設に対するイメージは、一般的にはあまりよくないようにとられていると思うが、決してそうではない。子ども達は、入所している子も緊急時に受け入れる子も同様に、明るく楽しく生活している。</p> <p>子育てを「とても楽しい」、「まあ楽しい」の回答率が非常に高いが、これで良しとするのは危険があると思う。数値は一つの指標であり、数値の裏側の部分、それぞれ増えた理由、減った理由を考察していくと思うが、それを大事にしてもらいたい。</p> <p>また、子育てを「あまり楽しくない」、「まったく楽しくない」と感じているのは、非常に問題があると思う。楽しくないということは、先ほど虐待の話もあったが、ストレスを抱えていたり、ネグレクトや愛着障害など、様々な事情で子どもへの影響が出るのではないかと。数字が小さいから良い、減ったから良いということではなく、更に減らすようにはどうしたら良いかとい</p>
事務局	
委員	
事務局	
委員	
委員	
委員	

発言者	内容
事務局	<p>うことを考えてもらいたい。</p> <p>今回は数値そのままをお示しした。今後、自由記入の内容を含めた分析を通じて、見落としがちな部分、むしろ手厚くしていかなければいけない課題が見えてくると思う。それを大事にしながら、委員の皆様と一緒に考えていきたい。</p>
委員	<p>子育てに負担を感じているかという質問に、「どちらともいえない」という回答が前回より増えていることが気になる。楽しいかどうかとも言えない、負担があるかどうかとも言えないという部分を、よく考察していただきたい。子育てに関心がなかったり、参加していなかったりという状況が数字の裏に隠れているかもしれない。こういうところを吟味していただくと、やらなければいけない課題が見えてくると思う。</p>
委員	<p>日常的や緊急時などに親族・知人に子どもをみてもらえる環境にない家庭が、未就学児、小学校1から3年生ともに1割を超えている。親御さんが誰にも相談できない環境にいる子ども達が1割強いるというところに着目し、的確に分析していく必要があると思う。</p> <p>長野県が行った「子どもと子育て家庭の生活実態調査」について、長野市分の回答のサンプルを入手して分析していると聞いているが、そこでの傾向が分析できていれば教えていただきたい。また、今回のニーズ調査と県の長野市抽出分の調査の相関関係の分析をしていくことになるのか。</p>
事務局	<p>県の「子どもと子育て家庭の生活実態調査」は、今年3月に報告が発表されたもので、1万2千世帯対象に郵送で行われたものである。長野市分のデータは現在、解析中であり、今日はまだ内容の説明はできない。分析の中で、提示していきたい。</p> <p>市のニーズ調査と県の調査の相関関係については、項目を洗い出しながら見比べていきたい。</p>
委員	<p>子育てと仕事の両立について、「大変なことが多く、無理をしている」を回答した家庭について、何が大変なのか把握できていないということはあるが、会社側も子育てに優しい会社にしていくということも大事であると思う。この会議の場だけの議論でなく、企業とのコラボ、企業にアンケート結果を渡して企業側にも考えてもらおう、ということも行っていただければと思う。</p>
事務局	<p>総括的な印象としては、子育てについての社会や企業の制度、雰囲気というものはこの5年間で少し進んでいると考えている。父親の育児参加も若干だが増えている。一方で、母親の就労状況がそれらをしのぐ状況で増えている。核家族化が進む中で、子育て世代の負担が増していることが数字上読み取れる。自由記入の意見も検証しながら分析していきたい。</p>

発言者	内容
	<p>県の調査は、回収率は高くないが、長野市に関してはサンプル数が相当あり、今のところ、市と全県あるいは長野地域の数値と著しく乖離するものは見当たらなかったと思う。統計的には、全県的な数値と傾向は変わらない。</p>
事務局	<p>県の調査は、調査対象カテゴリーが、小1、小5、中2、16・17歳となっている。調査自体の結果は長野市分を出せるが、今回の市のニーズ調査との相関という小1が絡んでくるということで、ご承知おきいただきたい。</p>
委員	<p>アンケートには出てこないが、子ども家庭の貧困、子育てに対する負担感、経済的なことというものがかなり大きいのではないかと。どうリンクさせていくかというのは難しいところだと思うが、そういう視点も忘れずに考えていかないといけない。</p>
委員	<p>県教委では小中学校の夏休みの期間を延ばしたらどうかということで、エアコンの設置も含めて報道されている。現実的に、小中学校では夏休みを延ばす方向で考えている。そうすると、子育てについて、特に長期休業中、児童センターや子どもプラザ、家庭で過ごす時間が一層増えてくる。</p> <p>計画には、放課後子ども総合プランの関係など、様々な事業が計画されているが、世の中の動きも踏まえた上での提案になってくる。5年間の計画期間を見通した提案がなされると良いと思う。</p>
事務局	<p>今年のような暑さが来年以降もあるという想定に立って、早めに児童センター等の安全で快適な環境整備を急いでいる。できれば来年の夏には全ての児童館・センターへのエアコン設置を完了したいと進めている。子どもプラザも、小中学校のクール化プロジェクトに合わせてできるだけ急いでエアコン設置を進めたい。夏休みの一番暑い時期に、一日中お子さんを預かる施設なので、設備が必要になると考えている。</p> <p>5年後を見据えてというお話については、放課後や休日など、放課後子ども総合プラン施設以外の広い意味での子どもの居場所についても、これから研究していきたい。</p>
委員	<p>今年の夏の猛暑で、私の自宅の近隣の小学校で夏休み中のプール開放が中止になった。子どもはプールに入りたいが、引率の親が大変、熱中症の危険があるということで中止になったと聞いている。設備面で日陰を作るなど、対応があれば良いと思う。親子が一緒に過ごせる、子どもが泳いでいるときに保護者同士が情報交換できるなど、貴重な機会でもあると思うので、配慮してもらえるとありがたい。</p>
事務局	<p>今夏の夏休み中のプール開放については、小学校への往復時の暑さもさることながら、プールの水温が非常に高いという状況で、熱中症の危険があり、各学校の判断でPTAや育成会等と相談しながら中止にしたという経緯である。</p>

発言者	内容
委員	<p>母親がフルタイムやパート・アルバイトで働いているという状況が、特に小学校1から3年生で強くなっていることが分かる。親が働いていて困ることは、子どもが病気になったときだと思う。病児・病後児保育があるが、どのようにしてもらえるか不安だから身内に預けるという判断が多いと思う。</p> <p>ファミリー・サポート・センターにも病児・病後児の預かりがあるが、「利用方法が分からない」とか「会員が近くにいない」、「利用料がかかる・高い」といった回答が多くなっている。私も提供会員になっているので、やはりそうかと実感した。このくらいの病気の程度なら、預けてみてもらえたら働けるのという親御さんの思いも伝わってくる。普通のファミリー・サポート・センターの預かりよりも、病児・病後児の預かりはすごく高くなってしまふ。知人が子どもを預かるときに「1日預ければ、1万円以上払うことになるが、本当に預けて良いのか」と母親に確かめたという。母親は仕方がなく預けたということだが、やはり料金が高いと思う。実際に預けたいという母親に聞くと、手続きが面倒、決まりごとが多い、料金が高いということで、これだったら自分で休んでみた方が良い、ということになってしまう。</p> <p>私も実際に講習会に出てみて、どうしてこんなに決まりごとが多いのか、提出書類が多いのかと思った。本音の部分では預かりたくないと思った。病気の子どもを預かる責任を強く要求されるなら当然のことかもしれないが、利用者数を増やしたいということであるならば、料金や方法について、提供会員も依頼会員も納得できるやり方を模索してもらいたい。いい制度だと思っているので、ぜひお願いしたい。</p>
事務局	<p>ファミリー・サポート・センターは、こども広場「じゃん・けん・ぽん」を運営している「NPO法人ながのこどもの城いきいきプロジェクト」に委託して実施している。基本の預かりは1時間600円だが、病児・病後児の預かりは1時間1000円になる。利用者のアンケートでは、料金は妥当であるという回答が圧倒的に多い。今回の調査との違いがあるので、そのあたりをどう考えていくかということになる。</p> <p>病児の子どもを預かることにはリスクがある。必要な研修を受けていただいているが、一番は実際に預かる前に信頼関係を構築することが大事である。</p> <p>長野赤十字病院と松代総合病院で、未就学児の病児・病後児保育を実施している。利用料は1日2000円程度、定員はそれぞれ1日3人である。長野赤十字病院に比べて松代総合病院の利用者数が少なくなっており、アクセスしやすい場所にあることが大前提である。子どもの様子が急変することがあり、病院につなげるということが大事なので、保育園に併設している市もあるが、長野市の場合、病院に併設されているのが理想であると考えている。市内には、他に、長野市民病院や篠ノ井総合病院がある。病院側の意向によるが、ニーズはあるので、病院に働きかけをしてさらに充実させていきたい。</p> <p>利用実績がなかなか上がらないのは、手続きのわずらわしさも理由だと思っている。事前の登録や予約が必要であり、診断書も必要である。予約した</p>

発言者	内容
委員	<p>が連絡なくキャンセルする方もいる。預かる場合、看護師を手配する必要がある、病院としては困ってしまうという問題も発生している。</p> <p>事業の実施に当たっては、国と県から補助金を受けている。国から補助金を受けるためには、国が定めたガイドライン・手続きに従う必要がある。そのため手続きも煩雑になっており、悩ましい部分である。</p> <p>保育園、幼稚園、認定こども園など全園でチラシを配って周知している。「知らない」という回答は、関心がないか必要がないということかと思う。ツイッターなどでも発信しているので、周知は徹底していると認識している。</p> <p>料金については、他市では無料で実施しているところもある。最近、幼児教育の無償化についての報道があるが、病児・病後児保育も無償化の対象になるということである。保護者が働いていて、どうしても預けなければならないという方に限定されるので、専業主婦の方など病院に連れていかれる方は対象にならない。ファミリー・サポート・センターや一時預かり、幼稚園の預かり保育も無償化の対象になるという情報であるが、対象年齢については事業ごと変わってくるようである。まだ詳しい情報は国から来ていないが、大きな影響があると思うので、細かいことが分かったところで委員の皆様や議会、保護者にも説明をしていきたい。5年・10年先を見通して、対応を協議して新しい計画の中に盛り込んでいきたい。</p> <p>発達支援に関して、統計を取るまでもなく、特別な支援が必要な幼児が各園の実態として増えてきている傾向である。</p> <p>「子育てが楽しくない」とか「どちらとも言えない」という保護者の回答の裏側にある理由に、そういう観点もあるのではないか。今回、発達支援の子に対しての支援をどうするかという調査はなかったが、次期計画を策定する中ではそういう観点で加えてもらいたい。</p>
事務局	<p>こども相談室で、発達に支援が必要な保護者・子どもからの相談対応を行っており、相談件数が増えてきている状況である。</p> <p>就学前児童の集計の中にも、「子育てに関して、日頃悩んでいること、気にかかること」という質問に、「病気や発育・発達に関すること」という回答が30パーセントを超えていたり、「子育てに関してほしい情報」として、「子どもの発達や育児、しつけについて」等の回答もある。こういった部分を分析しながら、次期計画にどう盛り込んでいくか検討していきたい。</p>
事務局	<p>5 その他 委員から：なし 市から：なし</p> <p>6 閉会</p>